

白川村 野谷荘司山 山スキー

2014年2月9日(日)

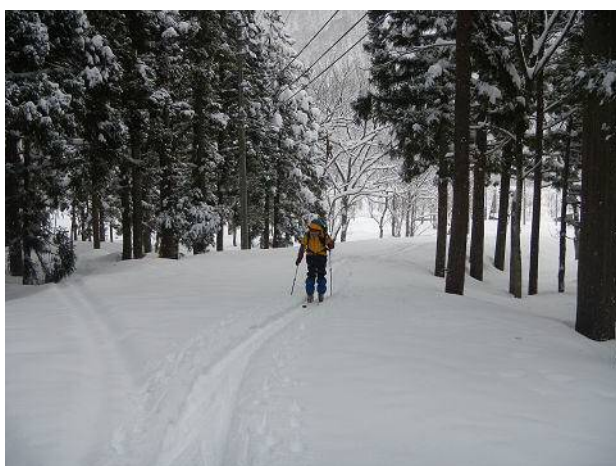
L池田T(記)、ヤマメ

野谷荘司山(1797m)は白川郷の西側に位置し、そこから尾根を南西にたどれば白山に至る。中腹にはブナの疎林帯が広がり、年間を通して楽しめる山である。特に冬は雪が深くて山スキーに向いている。今回は天候に恵まれず行程の約半分の標高1380m付近で引き返してきたが、ブナ林のツリーランは楽しめた。

2/9(日) 曇り

前日は南岸低気圧で太平洋側に大雪が降り、東京では27cmを記録。新東名や中央道・長野道は通行止めになった。東海北陸道は通行可能であったが、ひるがの高原の前後では路面は雪で覆われていた。白川郷では24時間で33cmの積雪。新雪が楽しめそうな一方、表層雪崩の不安がある。計画書に記載した白谷の滑降は無理だろうなと思いつつ出発した。

トヨタ自然学校の南側の空き地が除雪しており、7～8台停められるスペースがあった。先行パーティーが2組出発していた。我々もスキーにシールを張って出発。冬季通行止めの白山スーパー林道をしばらく進む。600m程歩くと先行者のトレースは林道を外れて山の中へ。我々もそれに沿って進み、野谷荘司山の東北東の尾根に取り付いた。



除雪されていない白山スーパー林道をシール歩行



標高880m付近

標高950mあたりで東側から上がってくる登山道と合流するが、夏道は雪に覆われていて全く分からない。ルート全般で標識は無く、赤布もほとんど見られない。ただ尾根ルートなので登りに関しては迷うことは無いと思う。人気の山スキールートなのでトレースが出来ている可能性も高い。実際、後から10人パーティーが追いついて来た。彼らは関西からのパーティー。テレマーカーが半数以上だった。



後続の10人パーティーに抜かれた



ブナの雰囲気の良い緩やかな尾根

標高1250mあたりで傾斜がキツイオープンバーンに出た。10人パーティーはこの先には進まず、滑走の準備を始めていた。一方でオープンバーンの中腹に先行パーティーが2人。彼らも登るのをあきらめて滑走の準備をしていた。確かに天気も雪の状態も良くない。表面が固くて滑らかなクラスト層の上に多い所で40cmほどの新雪が乗っており、安定しているとは言えない。ただ斜面の上に行くほど新雪が浅くなって部分的にはクラスト層が表に出ている。

それはそれで滑落の恐れがあるが、雪崩のリスクは少ないと考え、もう少し登ることにした。
登っている途中で2人組のスキーヤーと単独のボーダーが上から滑り降りてきた。

標高1350mあたりではほぼ平坦な所に出たが、風雪が強くて視界も悪いので我々もここで引き返すことにした。
シールとスキーアイゼンを外して滑走の準備をしていると別の6人パーティーが尾根を上がってきた。ここは本当に人気ルートだ。

条件が悪いので登ってきた尾根を滑ることにする。尾根は概ね広いし、密な樹林帯ではないので滑りに問題は無い。
南岸低気圧による積雪のためか、少々重めの新雪でフカフカのパウダーとは言えなかったが、リズムに乗れると上下左右の3次元的な滑りを楽しめる。程良い間隔のブナの木立には気分を癒される。



引き返し地点から見た上の様子。視界が悪くて進む気になれなかった。



ブナのツリーラン

降雪のため、登りのトレースは所々で消えていた。支尾根に入らないように注意しつつ滑って駐車地点に戻った。
時間に余裕があったので白川郷を少し見物。ライトアップ期間中のためか観光客用の駐車場はほぼ満車であった。
白川郷名物のどぶろくを土産に買って帰路についた。



雪が積もった合掌造りの家々

<タイム> トヨタ自然学校前8:00－尾根取り付き8:17－標高1380m付近11:30～11:50－自然学校前13:45



※ 1 週間後の2月16日に標高1300m付近で雪崩が発生して男性一人が死亡した。
さらに別の雪崩に巻き込まれた男性が左足骨折の重傷を負った。
白川郷では14日の朝から16日の朝までに30cmの降雪があり、事故当時は太陽が出ていたようだ。
私達が雪崩に遭わなかったのは運が良かっただけかもしれない。

以上